

EViews による推定手順

1. Workfile を作成する

- ① Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「EViews 7」を選び、EViews を起動する
- ② EViews の「File」メニューから「New」→「Workfile」を選ぶ
⇒ Workfile 作成ダイアログ・ボックスが開く
- ③ Workfile 作成ダイアログ・ボックスで、データの種類、期首、標本数を指定する
(ア) 時系列データの場合
「Dated – regular frequency」を選択
→ 期首 (Frequency) を指定 (年次 = Annual、四半期 = Quarterly、月次 = Monthly 等)
→ データの開始時点 (Start date) と終了時点 (End date) を入力
(イ) 横断面 (クロスセクション) データの場合
「Unstructured / Undated」を選択 → 標本数 (Observations) を入力

2. Data を読み込む

- ① 「Quick」メニューから「Empty Group (Edit Series)」を選択
- ② 現れたスプレッド・シートに、Excel で作成しておいたデータを貼り付ける
(注) 変数名 (半角英数字にする必要) も Excel から貼り付ける場合は、スプレッド・シートを 1 行上にスクロールして、「obs」の行に変数名が来るように貼り付ける

3. 推定する

- ① 「Quick」メニューから「Estimate Equation」を選択
- ② 推定のダイアログ・ボックスが表示されるので、「Equation specification (推定式の特定)」の枠内に、推定する回帰式に含まれる変数名を、被説明変数、説明変数 (定数項 = C を含む) の順に並べる (変数名の間にはスペースを入れる)
- ③ 推定方法 (Method: 通常は最小二乗法 (=LS – Least Squares))、推定に用いる標本の範囲 (Sample) を指定して「OK」ボタンをクリックする

4. 推定結果を分析する

上記 3 までの操作で、推定結果表 (Estimation output) が表示されるが、そのほか、推定式 Window の「View」メニューから、実績値・推定値・残差 (Actual, Fitted, Residual) のグラフ (Graph) や表 (Table) などを選んで表示させることもできる

5. 推定結果を保存する

- 推定式の Window の「Name」ボタンをクリックし、推定結果に名前 (Eq01 など) をつけると、その名前で Workfile 内に推定結果が保存される (2. で作成したスプレッド・シートも、同様に名前をつけることで保存される)
- 「File」メニューから「save」を選び、ファイル名を指定して Workfile を保存する